

平成30年度 事業方針

1. 基本方針

〈目的〉

1. 岩手県内における卓球の健全なる普及、発展と会員の統一及び、登録会員の体力向上、技術力の強化に資する取組みとする。
2. 組織運営におけるフェアプレーガイドラインに則り組織ガバナンスに資する取組みを行う。

〈施策〉

1. 大会運営
 - (1) 大会開催目的、趣旨に遵守した事業内容とすること。
 - (2) 開催にあたっては会計収支のバランスがとれていること。
2. 強化
 - (1) 選手の技術向上、取組み姿勢、豊かな人間性の醸成に資する取組み。
 - (2) 全日本大会の上位入賞を目標とする優秀指導者の育成を図る取組み。
3. 普及
 - (1) 小学生、中学生の登録者拡大策の積極的な取組み。
 - (2) 高齢者（ラージボール）の登録者増加策の実施。
 - (3) 未登録者対象の卓球普及講習会等の企画、実施。
4. 加盟団体連携
 - (1) 県民大会開催等による支部協会の組織力強化に資する取組み。
 - (2) 登録クラブの活性化、発展に寄与する取組み。
5. 専門委員会
 - (1) 各カテゴリーの競技力の向上及び普及に寄与する取組み。
 - (2) 専門的な見地から組織力の充実、発展に資する取組み。

2. 主要事業計画

- (1) 全国・東北大会等
 - ① アスリートパスウェイ東北・北海道ブロック大会
 - ・期 日 平成30年9月7日(金)～9日(日)
 - ・会 場 矢巾町民総合体育館
 - ② 第44回東北卓球連盟強化合宿
 - ・期 日 平成30年12月25日(火)～27日(木)
 - ・会 場 一関市総合体育館
 - ③ 【協力後援】第38回東北地区聾学校卓球大会卓球競技
 - ・期 日 平成30年7月11日(水)～12日(木)
 - ・会 場 北上総合体育館
 - ・主 催 東北地区聾学校体育連盟
- (2) 県内主要大会
 - ① 第70回岩手県民体育大会
 - ・期 日 平成30年7月7日(土)～8日(日)
 - ・会 場 奥州市総合体育館

3. 全体取組み課題

- (1) 登録人口の拡大
 - ① 全日本選手権出場枠は日本卓球協会への登録者人数によって決定されることから

- 「登録人口の拡大」は、最重要課題と位置付け取組む。
- ② 各カテゴリー別に具体的な取組み施策を検討し早急を実施する。
 - ・未登録者への登録促進
 - ・卓球普及イベント開催
 - ・普及の指導者講習会
- (2) 会計収支の改善
- ① いわて国体終了並びに国体天皇杯得点獲得低迷に伴い、強化費の削減が今年度より暫らく予想される。
 - ② したがって、会計収支の改善をはかるため支出項目の見直し、収入の増加策を実施し、選手強化や普及活動に予算配分できる財源を確保する。
 - ・役員会議での収支改善策の立案
 - ・支出における優先順位、重要性を判断
- (3) 組織運営のガバナンス力
- ① 競技団体組織経営に必要な「ガバナンス力」について理解を深め、業務を管理・統括する責任者の人間力、組織力の強化を図る。
 - ② 組織運営における「フェアプレーガイドライン」のセルフチェックなどを実施し協会自ら定期的に評価を行う。
- (4) 創立100周年記念事業
- ① 2022年（平成34年度）岩手県卓球協会 創立100周年記念事業
 - ② 専任常任理事を任命し、計画的に準備を進める。
- (5) 全国ラージボール卓球大会
- ① 平成32年6月下旬 盛岡タカヤアリーナ（予定）
 - ② 参加者約1,500名

4. 専門部・各委員会方針、取組み

- (1) 高体連卓球専門部
- ① 高校生登録者への公認審判員資格取得制度の継続
 - ② 平成32年度岩手インターハイ開催に向けた準備
- (2) ラージボール委員会
- ① 全日本選手権大会並びに、全国大会の県予選会の開催
 - ② 平成32年度全国ラージボール卓球大会開催に向けた準備、取組み
 - ③ ラージボール卓球の普及、委員会組織の強化に関する取組み
- (3) 社会人委員会
- ① 社会人選手及びチームの大会参加者の増加に資する取組み
 - ② 社会人登録者の拡大に向けた具体的取組み
- (4) レディース委員会
- ① 登録者の拡大、大会参加者の増加に資する取組み
- (5) ホープス委員会
- ① 小学生選手の卓球登録者拡大に向けた具体的取組み
 - ② 普及講習会等の開催
 - ③ オープンリーグの更なる活性化
- (6) カデット委員会
- ① 中体連卓球部員の日本協会登録への推進取組み
- (7) 審判委員会
- ① 審判員資格の新規登録料及び更新料の一部引下げに伴い、資格取得の推進に資する取組み
- (8) 障がい者スポーツ委員会
- ① 障がい者スポーツの理解と関係する大会事業への協力、並びに選手育成に資する取組み

(9) 事務局

- ① 本会の事業並びに予算額規模拡大に伴う事務局業務（委員会含）の増大を鑑み対策を講じる
- ② 事務局業務の改善・効率化に資する取組みを実施し人材の育成と業務の平準化を目指す

5. 役員の補充

- (1) 監事 阿部 徹氏（盛岡工業高校校長）
- (2) 常任理事（創立100周年事業担当）
下権谷 久和氏（県教育委員会）

6. 登録料の改定

- (1) 小学生 1,500円（前年1,000円）
- (2) 中学生 1,500円（ ” ）
- (3) 高校生 2,000円（前年1,200円）

<改定事由> *いわて国体終了に伴い強化費が減額されたこと並びにこれからの選手強化費に充てるためです。

別表① 平成30年度 全日本選手権大会各種目出場枠（平成30年3月11日現在）

	団体	男子単	女子単	男子複	女子複	混合	特別枠 (ペンホルダー 又はカットマン)
一般の部		2+1	2	1	1	1	
ジュニア		3	3				
カデット(2年)		2	2	2	2		4種目中 1種目(1名)
カデット(1年)		2	2				
ホープス		*3	3				6種目中 2種目 (各1名)
カブ		3	3				
バンビ		3	3				
マスターズ		2	2				
ホープス団体	1						
社会人		4	4	2	2		
クラブ	1						
レディース	1						

※注 29年度登録者2%以上増加による推せん枠1名（ホープス・カブ・バンビ6種目から選考）

別表② 特別推薦枠の割当表 一般・ジュニアの部（東北ブロック割当表）

年度	特別推薦枠	該当種目
平成28年度	なし	—
平成29年度	女子1人	ジュニア
平成30年度	男子1人	一般
平成31年度	なし	—

別表③ 国民体育大会卓球競技東北ブロック代表数

回	年度	開催地	成年男子	成年女子	少年男子	少年女子
第71回	H 28	岩手県(岩手除)	5	2	2	4
第72回	H 29	愛媛県	2	4	6	2
第73回	H 30	福井県	4	2	2	6
第74回	H 31	茨城県				
第75回	※ 1	鹿児島県				
第76回	※ 2	三重県				

別表④ 東北卓球連盟関連事業開催地一覧

年度	ミニ国体	選抜合宿	高校選手権	高校選抜	東北中学校	東北レディース	北日本ホープス	審判講習会	東北ラージボール	平成年度
2011 (震災)	青森 (宮城)	岩手	秋田 (福島)	宮城	岩手	中止	北海道	秋田	岩手	23 (震災)
2012	秋田	青森	山形	秋田	福島	青森	青森	福島	山形	24
2013	山形 (福島)	宮城	岩手	山形 (福島)	山形	秋田	岩手	福島	秋田	25
2014	福島 (山形)	山形 (福島)	秋田	福島 (山形)	秋田	山形	宮城	岩手	青森	26
2015	岩手 (青森)	山形	宮城	岩手 (青森)	青森	岩手	山形	岩手	岩手	27
2016	青森 (岩手)	秋田	福島	青森 (岩手)	岩手	福島	秋田	青森	福島	28
2017	秋田	青森	山形	秋田	宮城	宮城	福島	宮城	宮城	29
2018	宮城	岩手	青森	宮城	福島	青森	北海道	山形	山形	30
2019	福島	宮城	岩手	福島	山形	秋田	青森	秋田	秋田	31
2020	山形	福島	秋田	山形	秋田	山形	岩手	福島	青森	32

別表⑤ 全日本卓球選手権大会(一般・ジュニア)東北ブロック推薦者割当表

	山形	宮城	岩手	青森	福島	秋田
平成26年度		男子A	女子A		男子B	女子B
平成27年度	女子B		男子A	女子A		男子B
平成28年度	男子B	女子B		男子A	女子A	
平成29年度		男子B	女子B		男子A	女子A
平成30年度	女子A		男子B	女子B		男子A
平成31年度	男子A	女子A		男子B	女子B	